

## 「環境リテラシー」総合討論

- 「環境リテラシー」は地域教育開発専攻1年生後期の必修科目です。
- 前半7週間は環境分野教員による講義で、今年度は、生方・神田・大森編『ESDをつくる』（ミネルヴァ書房）を教科書として使用しました。
- 後半の7週間は22人ずつの2クラス（A, &B）に分け、同時進行で学生2人ずつがコンビを組んで選択した環境に関する課題の調査・考察に取り組んだ結果を1チームあたり30分で発表し、その直後の15分間は質疑応答を行います。
- それぞれのクラスに専門分野の異なる教員が2名ずつアドバイザーとして臨席します。
- 最終週は、ふたたび一つの教室に集合して「総合討論」を行います。
- 6つの分科会では、A、Bそれぞれのクラスからそれぞれ類似テーマを担当したチームが膝をつきあわせてテーマごとのまとめの討論を行います。
- そのあとで全体場で各分科会から報告し、質疑応答や総合討論を行います。下の写真は、2012年度の総合討論の様子です。

（生方 記）



総合討論の司会は、A、B両クラスから2名ずつの学生がでて、共同で担当します。



分科会での討議の様子。後方に、最終コメント担当の教員も。



分科会の討議の結論を発表しているところ。



総合討論では活発な質疑応答が行われます。左端は、ESD プランナー資格取得をめざす市民受講生。



授業の最後に、担当教員の一人、野村教員が討論の全体についてコメントしているところ。教員は一方的に持論を述べるのではなく、学生の新鮮な発想を大切にしながらアドバイスします。